

人と人をつなぐロボット

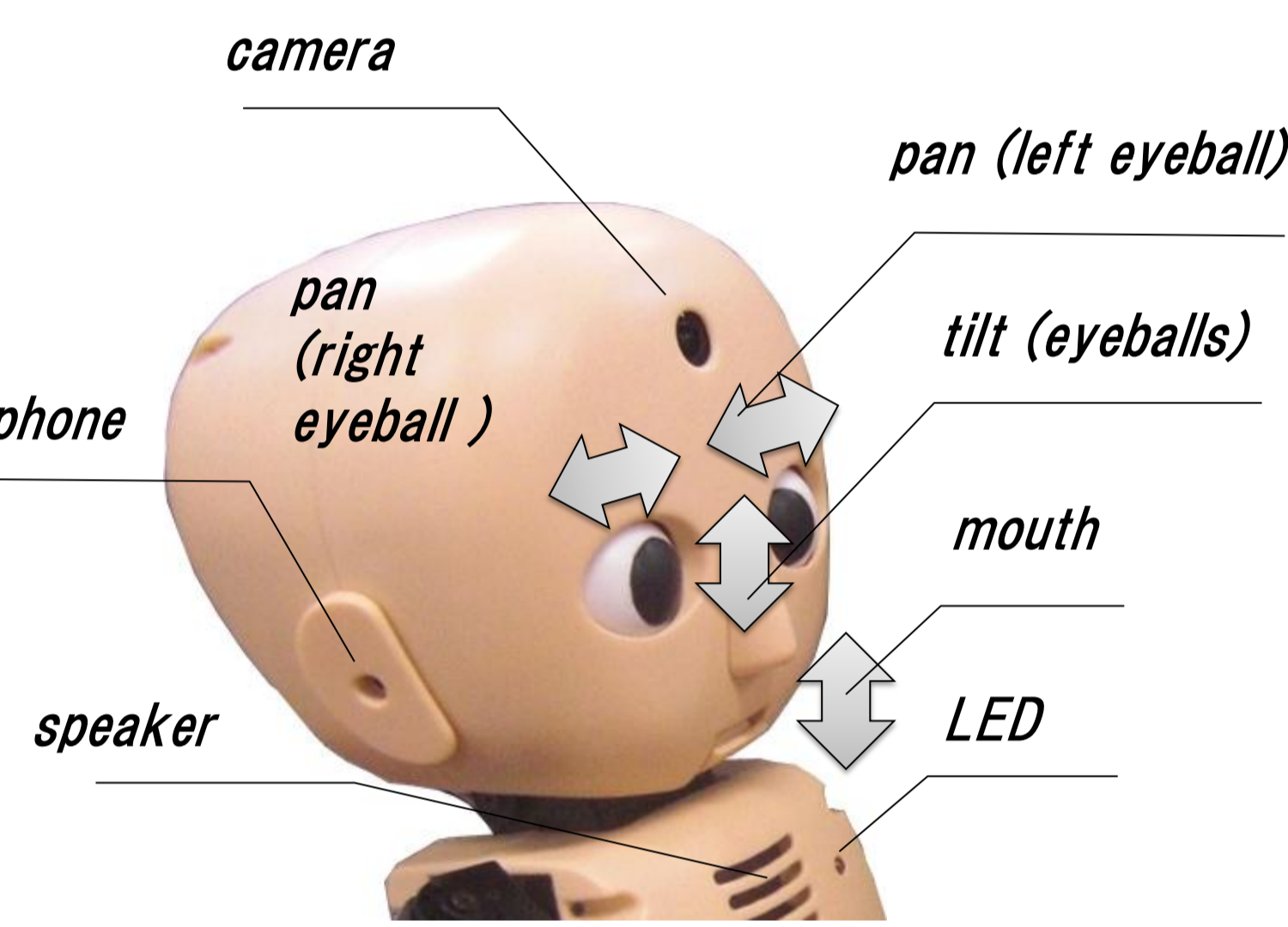
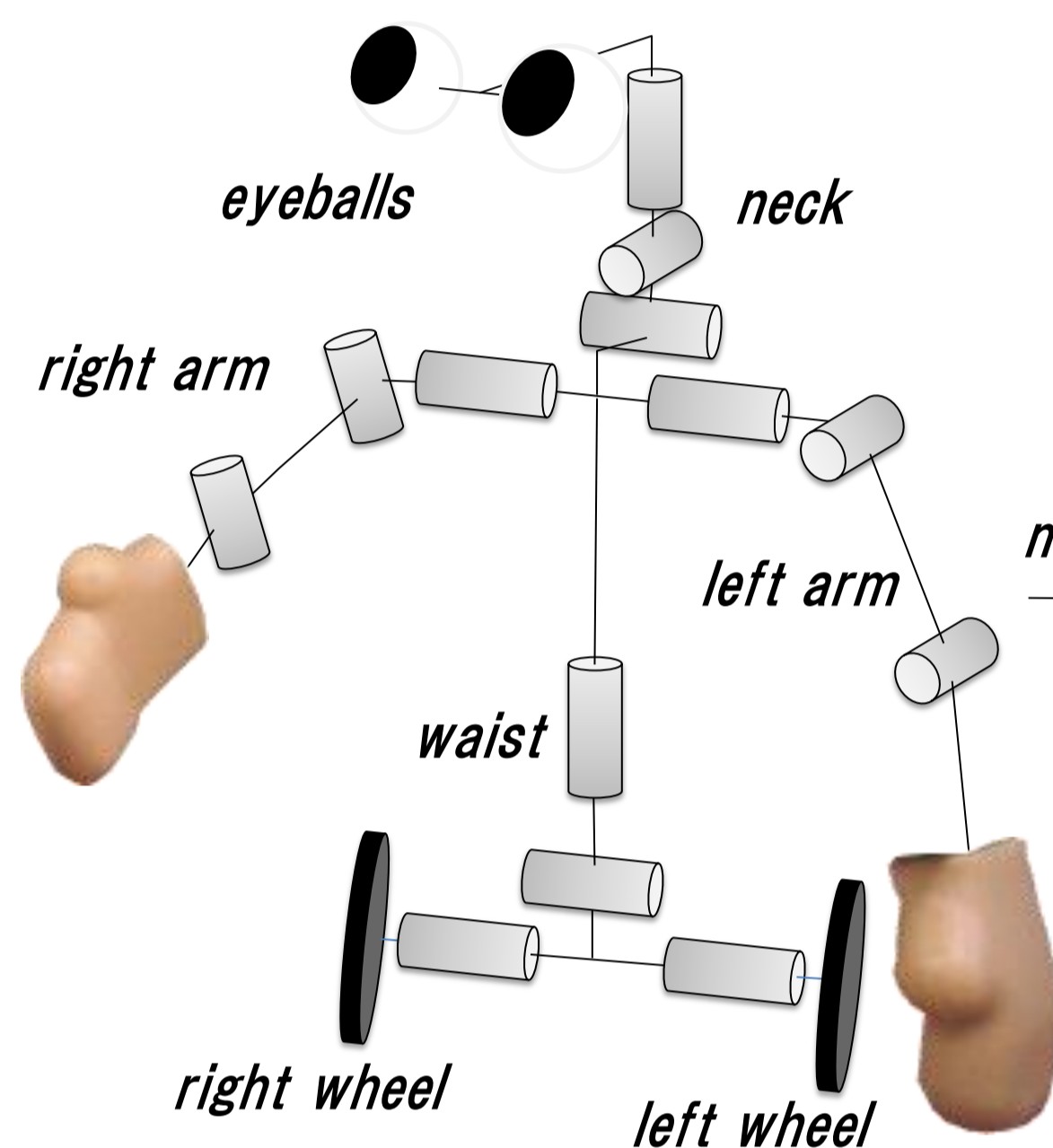
(JST ERATO浅田共創知能システムプロジェクト・大阪大学)



小人群型ロボット
M3-Synchy

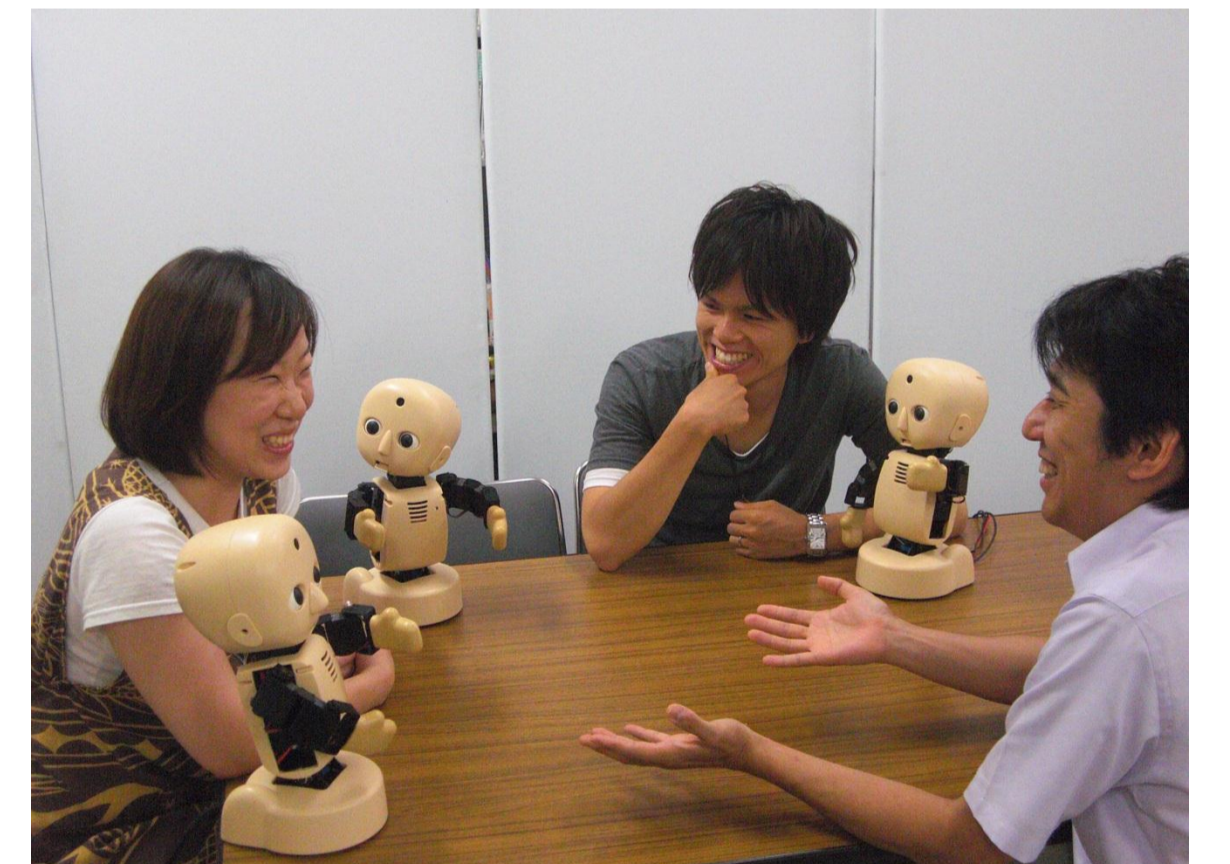
本研究では、3者以上のコミュニケーションに注目しています。個人のどのような性質が、人と人の間に起こるコミュニケーションを可能にしているのか？ロボットによってそれを支援することができるか？これらの疑問に答えるため、人間の対話の中に入り込める小さな人型ロボットを用いた研究を行っています。

- 簡単なジェスチャが表出できる機構
- 視線の動きを強調するデザイン
- 人を認識するセンサ（カメラ・マイク）
- 視線とLEDによる内部状態の表出



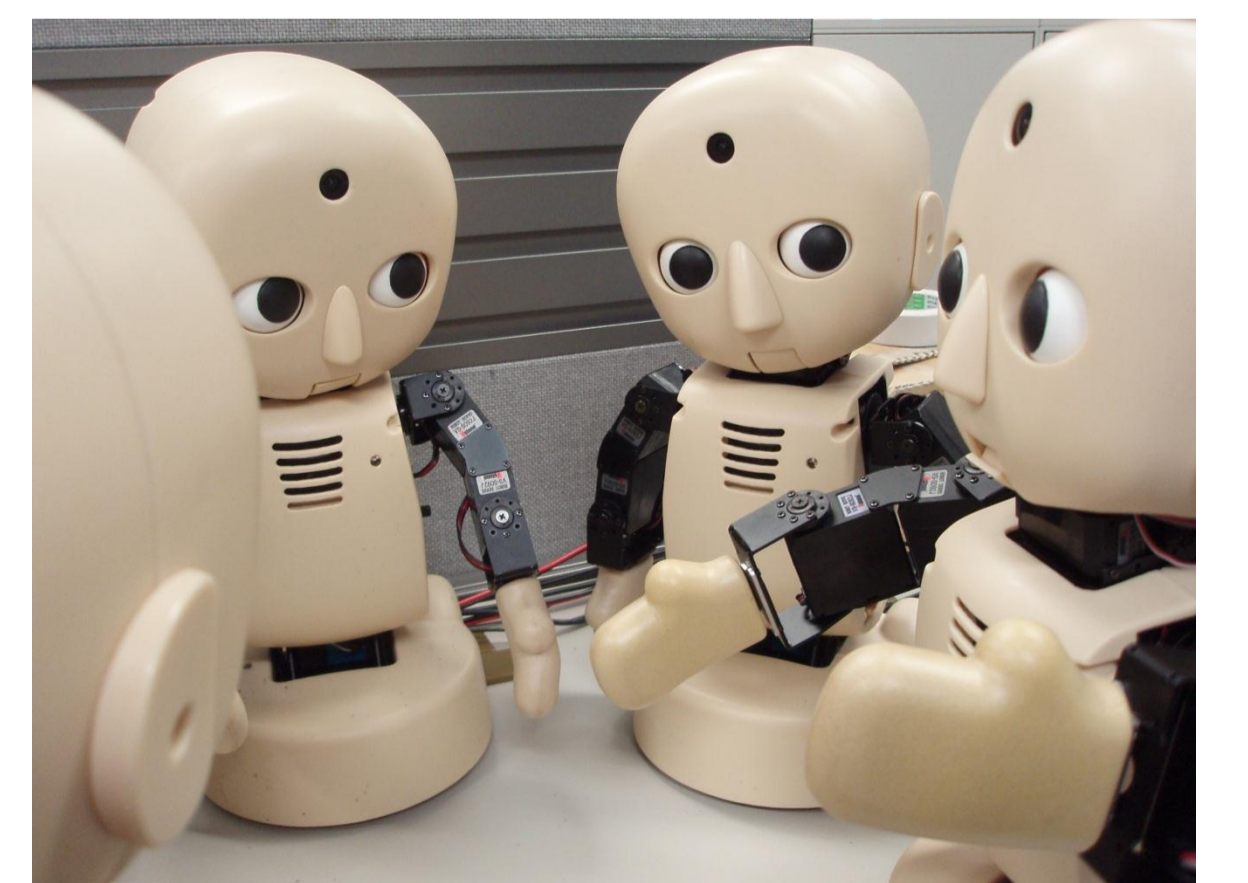
人間どうしのコミュニケーションを活性化させるロボットの実現

微笑み、頷き、視線合わせ、といった非言語的モダリティによって働きかけることで、人の行動に影響を与え、人間どうしの対話における満足感や一体感を向上させるロボットのメカニズムを研究しています。診察室での実証実験と連動して研究を進めています。



人間の社会性の基本メカニズム

「坊主憎けりや袈裟まで」「敵の敵は友」といった言葉が表すように、他者や物に対する人間の認知は、第三者との関係性に影響されることが知られています。本研究では、人間関係に作用するロボットの実現を通じて、このような現象の元となる人の認知メカニズムを理解し、人間の社会性の基本的なしくみに迫ります。



人間の社会発達を支援するロボット

発達障害児や、認知症の老人とのコミュニケーションの困難さが社会問題となっています。本研究では、人の認知に作用するロボットをこれらのコミュニケーション場面に導入し、これらの問題のしくみの理解し、これを解決・緩和していく方法について研究しています。

